

総特集

PACS選定—その理由、そして効果

もはや導入は目的ではない。診療の質と経営力向上に合致したシステムを選ぶための方法論を、成功施設から教わる

特集

各診療科が認める3D画像の実力



聖路加国際病院では、DSA装置を常設する手術室兼血管内治療室(ハイブリッド室)を心血管センターに設置し、循環器医療の新しい局面を切り拓く。後方に47階建ての聖路加タワーを望む同病院の前で、川副浩平心血管センター長(左)と丹羽公一郎循環器内科部長(詳しくはグラビア頁)

【特別企画】

画像診断機器のスループット性に注目する

【データ】

3D画像システム設置施設名簿 [Part1]

日立メディカルコンピュータ

診療所のIT化と経営の最前線を講演と展示会で紹介

日立メディカルコンピュータは、6月23日、日立メディコ名古屋支店（中区）で、IT化を中心に診療所の今後の経営戦略を解説する「日立メディカルITセミナー2011」を開催した。協賛は日立メディコと日立アロカメディカル。

セミナーは、大きく2つの講演で構成され、最初の講演はメディキャストの大西大輔氏（メディプラザ事業統括マネージャー）による「クリニックIT化最前線～電子カルテの導入からiPadの活用まで」。大西氏は、電子カルテの普及率が20%を超え、多くの診療所がIT化を検討する時代が到来している現況を受け「紙カルテから電子カルテへの移行、

事業承継に合わせた電子カルテ導入法、医療クラークの雇用、電子カルテ選定の知識など、効果的なIT化を実現するためには専門的なノウハウがある」と論じ、事例を挙げて解説。さらにiPadで広がると喧伝される電子カルテの可能性について、各種モバイル端末の活用事例を紹介しつつ、その有用性を紹介した。

もうひとつの講演は、医業経営コンサルタントの青木洋光氏（D.DIRECT代表取締役）による「患者満足度による増患実例研究」。景気低迷に伴う医療費抑制政策、受診抑制等の理由で患者減少傾向が続くクリニック経営の抜本的な改善方策に言及。その中で「患者満足度を検



同セミナーは福岡でも6月18日に開催されており、今後も随時続けていく予定

討した診療所に変化は来る。具体策は、患者中心の医療体制確立、マネジメント体制の早期確立、全体の質向上、情報資源の蓄積と活用、人材育成と能力開発等だ」と述べ、事例を挙げて解説。

会場には、日立メディカルコンピュータ・日立メディコ・日立アロカメディカルの製品を展示し、日立グループが提唱する「デジタルクリニック」の具体的イメージを訴えた。